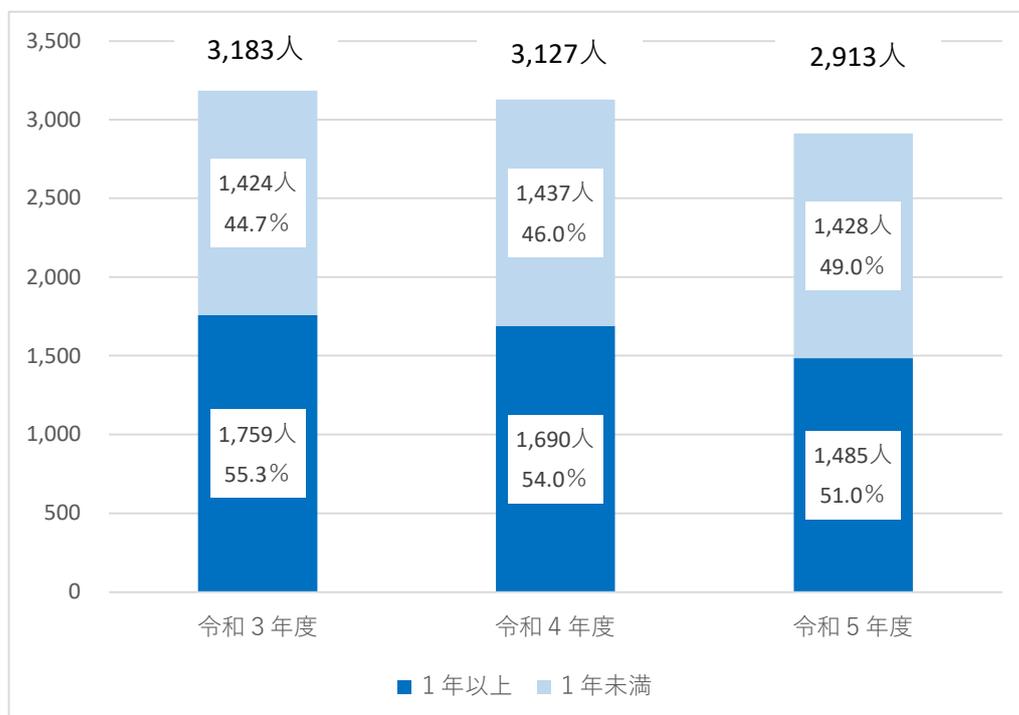


# 令和5年度精神科在院患者調査からの報告について

資料 2

## 1. 在院期間別入院者数推移(令和3～5年度)

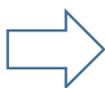
	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
～3か月	877	27.6%	947	30.3%	950	32.6%
3～6か月	268	8.4%	221	7.1%	253	8.7%
6か月～1年	279	8.8%	269	8.6%	225	7.7%
1～2年	365	11.5%	305	9.8%	271	9.3%
2～3年	261	8.2%	244	7.8%	175	6.0%
3～5年	295	9.3%	322	10.3%	313	10.7%
5～10年	364	11.4%	358	11.4%	318	10.9%
10～20年	287	9.0%	287	9.2%	252	8.7%
20年～	187	5.9%	174	5.6%	156	5.4%
計	3,183	100.0%	3,127	100.0%	2,913	100.0%
1年未満(再掲)	1,424	44.7%	1,437	46.0%	1,428	49.0%
1年以上(再掲)	1,759	55.3%	1,690	54.0%	1,485	51.0%



入院者数は減少傾向。全入院者に占める1年以上入院者の割合は、令和3年度55.3%、4年度54.0%、5年度51.0%と、減少傾向。

## 2. 1年以上入院者の状態像と寛解・院内寛解者の退院予定の有無（令和5年度）

寛解（※1）	12	0.8%
院内寛解（※2）	113	7.6%
軽度	255	17.2%
中度	691	46.5%
重度	354	23.8%
最重度	60	4.0%
計	1,485	100.0%



	病状（主症状）が落ち着き、入院によらない形で治療ができる程度まで回復		病状（主症状）が不安定で入院による治療が必要		退院予定	
寛解（12人）	7	58.3%	0	0%	5	41.7%
院内寛解（113人）	71	62.8%	27	23.9%	15	13.3%

### （※1）寛解：

- 家族の受け入れ困難や生活の場の困難などの社会的要因により退院できないもの
- 最小限の服薬は続けているが、社会生活上の支障は認められず、自立して生活できると予測されるもの

### （※2）院内寛解：

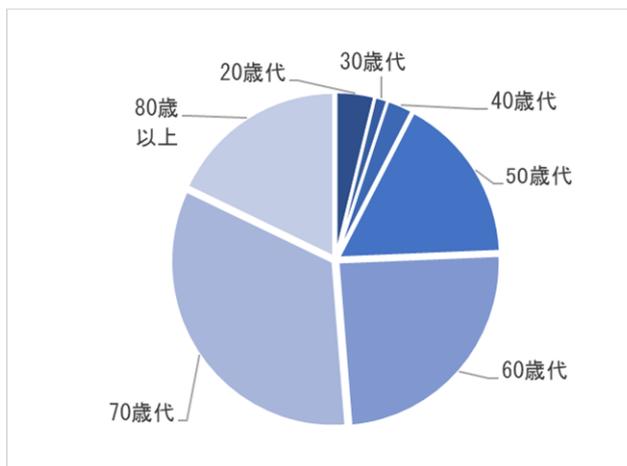
- 院内の保護的環境においては、日常生活に問題はないが、一般社会においては不適応、症状増悪、再燃を起こしやすいもの
- 社会技能訓練等の包括的なリハビリテーション・プログラムにより、ある程度の自立性が期待できるもの

1年以上入院者の状態像は中度が最も多く、次に重度、軽度の順で多い。寛解・院内寛解は、合わせて1割近く(8.4%)。そのうち「入院によらない形で治療ができる程度まで回復」とされる者が78人と、6割強(62.4%)を占める。

## 3. 「入院によらない形で治療ができる程度まで回復」とされる者78人の状況

### 【年齢】

20歳代	3	3.8%
30歳代	1	1.3%
40歳代	2	2.6%
50歳代	13	16.7%
60歳代	19	24.4%
70歳代	26	33.3%
80歳以上	14	17.9%
計	78	100.0%
(再)65歳未満	28	35.9%
(再)65歳以上	50	64.1%



70歳代が最も多く、次に60歳代、80歳代が多い。65歳以上が6割強を占める。

## 4. 1年以上入院者の生活保護受給の有無

あり	30	24.0%
なし	95	76.0%
計	125	100.0%

生活保護受給中が約1/4を占める。

## 5. 地域移行に向けた支援の方向性

- ・入院期間が1年以上で状態像が寛解または院内寛解、かつ退院予定の分類が「病状（主症状）が落ち着き、入院によらない形で治療ができる程度まで回復」となっている者78人について、重点的に地域移行を推進すべきと考える。
- ・6割を占める65歳以上の方の支援にあたっては、地域包括支援センター等の高齢者関係の支援機関とも連携するなど、個別性に合わせた支援を行う必要がある。
- ・地域生活移行推進事業と被保護精神障がい者等地域移行支援事業とは、今後更にお互いの機能を活用・連携し、退院支援を推進していきたい。
- ・引き続き、上記78人を含め、寛解・院内寛解にある方の入院先を中心に病院連携を図っていく。ピアサポーターとともに、地域生活移行推進事業及び被保護精神障がい者等地域移行支援事業の事業説明を行うとともに、退院や地域生活体験を伝える地域交流会の開催に取り組んでいく。